

全国から集まっています

- **人数** **これまでの受け入れ実績**
1990年度より、現在26期生までが2年間の研修を修了しました。毎年1～3名を受け入れており、現在の修了者は47名です。
- **資格** 公的な資格は取得できませんが、修了者には研修終了の証明書を交付します。近年では本コース在籍中に精神保健福祉士の取得を目指す方が増えています。
有資格者人数(のべ人数)
臨床心理士 19名
精神保健福祉士 30名
- **出身** 川村学園女子大学、早稲田大学、慶應義塾大学、日本女子大学、学習院大学、東京女子大学、東京大学、東京学芸大学、東京福祉大学、聖心女子大学、東洋英和女学院大学、お茶の水女子大学、明治大学、帝京大学、北海道医療大学、大正大学、玉川大学、茨城大学、昭和女子大学、聖徳大学など
- **研究** 開設当初より、生活臨床や実行委員会方式など臨床プログラムに関する研究を積極的に実施しております。近年では学会発表を中心に、実践報告や事例報告を定期的に行っています。現在活動している研究は以下の通りです。
①臨床情報に基づく後方視的研究
②生活臨床とリカバリーの科学研究(Foresight research project on life and value oriented recovery; FLAVOR)
③メタ認知訓練プログラムの有効性の評価研究
④生物学的研究との連携
また、地域の関係機関や企業の協力のもと、精神障害者の就労支援に関する研究会などにも参加しております。
- **進路** **医療分野**：吉祥寺病院、久喜すずのき病院、成増厚生病院、東京大学医学部附属病院、昭和大学附属烏山病院、平川病院、東邦大学医学部附属大森病院、与野中央病院、横浜舞岡病院、国立国際医療センター国府台病院、国立精神・神経センター病院、尾内内科神経科病院、本郷東大前こころのクリニック、東葛病院、成田病院
地域精神保健分野：银杏企画(就労継続支援B型・就労移行支援)、ホーム银杏(精神障害者グループホーム)、足立区江北保健総合センター、豊島区役所、富山県庁
産業分野：T-PEC株式会社(EAP)
進学：東京大学大学院博士課程

病院・大学・地域へ、高い就職率



国立大学法人 東京大学医学部附属病院
リハビリテーション部 精神科デイホスピタル部門

2019年度

精神保健・臨床心理デイケア研修プログラム
研修生のご案内

● お問い合わせは

東京大学 医学部附属病院 リハビリテーション部 精神科デイホスピタル

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

TEL: 03-5800-9811 FAX: 03-5800-9565

URL: <http://todai-dh.umin.jp/>

選考担当者：清水 希実子

Mail: todai.day.hospital@gmail.com

University of Tokyo Hospital



スタッフ(3名の研修生が在籍しています)



SST（生活技能訓練）

精神障害者のリハビリテーションのモデルとして、第1回ベストプラクティス賞をいただきました！ (2008年第16回日本精神障害者リハビリテーション学会にて)



東京大学医学部附属病院
リハビリテーション部教授
芳賀 信彦

ご挨拶

東京大学医学部附属病院では、1974年から統合失調症患者を中心とした精神障害者の社会復帰施設として、デイホスピタル部門を開設し運営してきました。1993年4月には、「精神科大規模デイケア」としての認可を受けました。これまで、約670名の患者（メンバー）を受け入れ、多くのメンバーの社会復帰の実現を果たしております。

デイホスピタル部門では、1990年度より「精神保健・臨床心理コース」を開設しております。デイホスピタルでの実務を通じて、精神障害者の心理社会的支援について学ぶというものです。実際に精神障害者への援助に携わることを通じた実務研修が中心で、それを補完するものとして、精神障害やリハビリテーションに関する講義も行っております。

近年では、特に精神保健福祉士（PSW）の通信制専門学校で勉強しながら、当所において臨床技能の修得を図る研修生が増えております。大学院との両立についても、論文やデータ収集・カリキュラムなど様々な面でバックアップし、相談に応じる体制が整っております。



東京大学医学部附属病院
精神神経科教授
笠井 清登

東京大学医学部附属病院リハビリテーション部精神科デイホスピタルは統合失調症患者を中心とした社会復帰施設として開設・運営されており、精神科医師を初めとして看護師・臨床心理士・精神保健福祉士・作業療法士の多職種からなるチーム医療を実践しています。

精神科の外来診療部門及び病棟部門とも連携を図り、外来・入院治療と一体となって精神疾患の治療・リハビリテーションを行うことをミッションとしており、精神疾患の方の復学や就労・復職支援を地域の医療機関や社会福祉施設と連携して行っています。

一方、統合失調症は前駆期・急性期・慢性期からなる時間経過を追うこと、生物学的及び臨床精神医学的観点からも早期発見・早期治療を行うことが良好な社会的予後につながる事が知られています。今後は慢性期の統合失調症のリハビリテーションに加えて、初期の統合失調症への早期介入も行って、精神疾患の予後の改善に広く寄与していくことを目指しています。

精神科専門職に対する社会的ニーズは益々高まっていますが、当施設では精神疾患に対する幅広い理解と知識を得ると同時に実践的な経験を積める環境が整備されており、是非熱意ある方々の応募をお待ちしています。

豊富な臨床・研修の機会。

さまざまな業務を通じてチーム医療を総合的・体験的に学ぶ。

● 当コースの紹介

当コースは、精神障害者(統合失調症を主とする)の社会復帰に関して、実務研修を通じてその心理社会的実践技法を修得し、あわせてその背景理論も学習することにより、広い視点を身につけた精神科リハビリテーションの専門家養成することを目的としています。

基本的には、デイホスピタルのプログラムに参加しメンバー(患者さん)との関わりの中での臨床実務研修が中心ですが、補完するものとして、講義・スーパーヴィジョン・関連施設・その他精神科医療の臨床研修などを行っております。

【主な特色】

- 精神障害者の特徴を捉え、その方の人生をより良いものにするための支援方法を包括的に学ぶことができます。
- 個人精神療法や認知行動療法が実践できます。
- 就労・就学支援、アウトリーチの方法を、経験を通して学べます。
- デイケア等集団療法の目的、仕組み、意義が学べます。
- 大学病院なので、医師や他職種との連携、外来・病棟での総合的な精神科医療が学べます。
- 学会、講演会や研修会に参加でき、最新の知見・動向が学べます。
- スーパーヴィジョン体制が整っています。
- 地域ケアネットワークの意義や社会資源活用の実践が学べます。

● 研修生OBの体験談

17期生 五十嵐美紀

(現所属：昭和大学附属烏山病院精神保健福祉士)

私は福祉系の大学を卒業し、DH研修生となりました。精神保健福祉士の実習中、業務におわれ、限られた時間だけで患者さん方と接している実習指導の先生の姿をみて、やっていける自信がなくなり、もっと患者さんとの接し方を勉強したいと思ったのが研修生への動機です。

メンバー研修では、メンバーと同じ立場でプログラムに参加したり、昼御飯を食べたりと、メンバーがどのような生活をして、どうしているかを考えているのが生で感じる事が出来ました。その後、少しずつ受け持ちを持ち、客観的にもメンバーの様子をみれるようになっていったように思います。その他にも生活臨床や家族心理教室、症状自己管理モジュール、勉強会・・・と勉強できる沢山の機会があります。その中でも、メンバーとの関わりで疑問に思ったこと、嬉しかったこと、ショックだったこと、どんなことも真剣に受け止めてくれる先輩スタッフ方がいることが私にとっては、一番の勉強になりました。そのことで安心することが出来、少しずつメンバーとの関わりに自信を持っていくことができたように思います。私は今、学生時代に不安に思っていた精神保健福祉士として仕事をしており、二年間吸収したことを活かそうと、毎日奮闘しています。私にとって研修生の二年間は誰に聞かれようと、「貴重な時間」でした。関心をもって頂けたらご応募頂けると嬉しいです。

12期生 山崎修道

(現所属：東京都医学総合研究所主任研究員)

私が東大病院での研修を志望した理由は、①精神科リハのチーム医療を体験しながら学べること、②大学院との両立が可能であること、③スーパーバイズ体制が非常にしっかりしていることの3点でした。

研修が始まってからは、講義で精神医学の基礎知識や心理アセスメントのスキルを身につけることが出来ました。また、チームの一員として、実際にケースやグループを担当し、責任ある立場でチームに参加することが出来ました。最初は右も左も分からない状況でしたが、先輩スタッフの方々にていねいにアドバイスを頂きながら2年間の研修を無事終えることが出来ました。研修と並行して、修士論文・博士論文・研究活動にも協力して頂き、臨床心理士資格と学位も取得できました。今後は、大学病院というフィールドで、臨床・研究・教育のバランスを取りながら、当事者の方の力になりたいと考えています。

● コース内容(2年間)

2年間の研修期間は以下の3期から構成されています。研修終了後には、一定の指導のもと、治療者として患者に関わることができるようになることが目標です。

メンバー研修 集団への入り方を習得する

集団場面を通じて、個人への接し方と障害の把握の仕方、治療者としての振舞い方を修得します。デイホスピタルの治療構造、SST、心理検査、精神医学全般について講義や、地域の作業所・グループホームなどの社会資源、院内関連施設や他病院の見学を通して精神科医療全般についての見識を深めます。またSST普及協会認定講師によるSST初級リーダー講習に参加していただき、SSTのリーダーをするための知識を蓄えていただきます。

メンバーと同じ目線で集団に参加する経験は病気がどう生活に関わっているかを知る貴重な機会であり、より深く精神障害の方について理解できる時期です。

担当研修(前期) 指導を受けながら治療的関わりができる

メンバーの個人受け持ちを通して、個人の障害を客観的に理解し治療に必要な実践スキルを修得します。またスタッフ視点で集団に参加し、集団運営の基礎的事項を修得しSSTリーダーを担っていただきます。社会的資源(ハローワーク・就労支援センターなど)利用の方法について学習します。

担当研修(後期) スーパーヴァイズのもと、治療的関わりをする

集団力動を把握し、スーパーヴァイズのもとに集団運営を実践していきます。メンバーの就労・就学活動の援助をする中で、社会資源の有機的な利用をマネージするスキルやアウトリーチ支援を実践します。また本人の希望に応じて、幅広い精神科医療における研修に参加することも可能です。

研修曜日・時間は、月～金曜日の9:00～17:00です。週4日以上が望ましいですが、相談の上決めていきます。

● 案内

【採用年限】 2ヵ年(2019年4月～2021年3月)

【募集人員】 若干名

【研修費用】 無料

【応募資格】 心理学科、福祉学科あるいはそれらに相当する学科を2017年3月以降卒業あるいは本年度卒業見込みの者の内、
(ア)現在大学院在学中あるいは大学院進学予定の者
(イ)本年度大学を卒業見込みあるいは大学院を修了見込みの者
(ウ)すでに大学を卒業あるいは大学院を修了した者
で精神障害者の社会復帰に強い関心を持ち、実務経験を積みたいという熱意を持っている者。

- 申込方法 出願に必要な書類(小論文・履歴書・身分証明書)を郵送にて送付 *詳細は募集要項をご覧ください。
応募締め切り：2018年9月14日(金)必着
- 選考方法 一次選考：書類審査と面接(2018年9月20日(木)16:00～) 二次選考：希望日(4日間)でのデイケア参加

●内容説明会があります！！
カリキュラムなどの詳しい説明や現役研修生による体験談、質問タイムも設けています。ぜひ気軽にご参加ください。
2018年7月27日(金) 16:00～17:00
場所：東京大学医学部附属病院 入院B棟10F
精神科デイホスピタル内
☆参加希望の方は、前日までにTELにてご連絡ください。